日本船舶海洋工学会

第９回　ふね遺産　応募　「明石型生船に関する歴史・造船資料一式」申請添付資料

はじめに（生船研究会会長　金井清）

今回の資料は大日水産の残した膨大な鮮魚運搬業の資料が重要です。鮮魚運搬の歴史、明治から昭和にかけて淡路富島の鮮魚運搬業者の活躍が資料として残されています。明石型生船の建造工程の詳細な写真、大日水産の運行記録、遠く五島、壱岐対馬まで買い出しの記録です。

明石、淡路にとって鮮魚運搬業は江戸時代から地場産業として発展してきましたが明石型生船の出現で一気に拡大しました。今その歴史的な偉業が忘れられ残された資料も散逸の危機にあり「ふね遺産」に認定されることは重要な意味があると思います。

昭和３４年発行の『日本漁船発動機史』の５頁に「鮮魚運搬船の発祥地ともいわれる兵庫県明石においても、明治４３年に同地鮮魚運搬船に発動機の採用を見」と書かれてあり明石型生船の出現が日本の漁船発動機の発展に寄与したことがわかります。

付随資料；1 気筒　焼玉機関　（現存資料）

国立鳥羽商船高等専門学校に長年放置されていた焼玉機関を譲り受け、パーツの一部を製作し復元運転可能な状態にし、現在も月１回程度の割合で稼動させている。千葉県船橋の運転可能な焼玉機関が所有者の高齢化で稼動できなくなり舶用で稼動可能な焼玉機関は、おそらく日本で唯一の現役と思われる。（農業用では現存あり）

本機関については、神戸大学海事博物館　研究年報 49 号（2022 年）に掲載（溝下和裕著）

（神戸大学海事博物館 HP（リンク）より閲覧可能）

レストア前

レストア後